

No. 55
 9・10月号

Ohmi net



おうみネット

●発行日/2006年9月1日 ●発行所/(財)淡海文化振興財団

CONTENTS

■特集:淡海とびっくす

「あなたは 防災に対する 備えをして いますか？」

過去の災害に学ぶ
 ~あなたにこれからできること②

■支える・つなく・結ぶ
 情報BOX ① ⑩

■孫の手ナビ ⑥

【そこが知りたい!NPO運営術 VOL.3】

【Sekenよし!】

財団法人エネサーブ理工教育振興財団

■元気NPO探し隊 ⑦

- じいちゃんズ
- 近江八幡外国籍市民ネットワーク
- 特定非営利活動法人 環境工房ころころ

■Ohmi net
 INFORMATION
 9月・10月 ⑨

月 MON	火 TUE	水 WED
この日なんの日? NPOカレンダー 9月・		
4 クラシック音楽の日 ★	5	6
11 警察相談の日 ★	12 水路記念日	13 世界の法の日
18 敬老の日	19 ★	20 空の日 地域安全の日 (毎月20日)
25 ★	26	27 世界観光の日
28 ★	3 登山の日	4 都市景観の日
9 体育の日 世界郵便デー	10 ★ 目の愛護デー	11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 統計の日
16 ★ 世界食糧デー	17	18
23 ★	24 国連デー	25
30 ★	31 ガス記念日	



※このページは1ページと10ページで1つのCONTENTSとなっております。掲示用としてお使いいただけます。

助成金情報

日本財団2006年度改装事業助成

内容●高齢者や障害者の地域生活を支える拠点となるべき施設が不足していることがあげられます。「住みなれた町で暮らしたい!」「生きがいをもって働きたい!」…その願いをかかなえるための拠点整備に対して、「改修事業助成金」というかたちで支援を行います。

助成対象●NPO法人・任意団体

対象事業●

- ①既存の福祉施設を改装する事業
・助成率90%以内・助成金限度額50万円
 - ②既存建物を改装し、新たに福祉施設を整備する事業
・助成率90%以内・助成金限度額100万円
 - ③小規模作業所における作業用機器を整備する事業
・助成率90%以内・助成金限度額50万円
- (注)老人の入居施設を整備するものは対象外です。

受付期間●8月1日～9月20日

(注)助成金の助成契約締結前に改修工事の契約をした事業は、助成金の対象となりません。

☎日本財団「2006年度改修・改装 申請係」

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 TEL:03-6229-5111 (総合案内)
http://www.nippon-foundation.or.jp/

財団法人ヨネックススポーツ振興財団助成金

対象団体●青少年スポーツの振興に関する事業を積極的にを行い、奨励し、または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している、次の要件を満たした団体とします。

【団体の要件】

- (1)民法第34条の規定により設立された社団法人及び財団法人
- (2)上記以外の団体で、次の要件を備える団体
 - 1.定款、寄附行為またはそれらと同等の規約があること。
 - 2.団体の意志を決定し、執行する組織が確立していること。
 - 3.経理処理能力があり、監査する等の会計組織をもっていること。
 - 4.団体活動の本拠としての事務所をもっていること。

金額●年度内に予定する一つの事業予算の2分の1で概ね100万円以内とします。
申請期限●9月30日

☎財団法人ヨネックススポーツ振興財団事務局

〒113-8543 東京都文京区湯島3-23-13
TEL:03-3839-7195 FAX:03-3839-7196
http://www.yonex.co.jp/zaidan.html

日本万国博覧会記念機構助成事業

内容●1970年に開催された日本万国博覧会の収益金の一部を基金として管理し、その運用益をもって国内外の「博覧会の成功を記念するにふさわしい活動」に対して助成金を交付しています。

対象事業●

- ①国際相互理解の促進に資する活動(○国際文化交流、国際親善に寄与する活動○学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動○自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動)
- ②博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動(○日本の伝統文化の伝承及び振興活動○芸術及び地域文化に関する活動)

金額●

- ①国際相互理解の促進に資する活動 助成率:原則1/2以内
限度額:100万円～3,000万円(事業の形態によって限度額が異なります)
- ②博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動事業の形態に関係なく50万円の定額助成です。

提出期間●9月1日～30日(当日消印有効)

☎独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-1 http://www.expo70.or.jp/

▼情報BOXに掲載できなかった情報は、センターのホームページに多数掲載しています。

URL●http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net/

▼11月・12月の掲示板 情報募集中! 日時・場所・問合せ等を明記の上、10月1日までにEメール、FAX、または郵便でセンターまでお寄せください。

市民活動情報

押花と陶器のオリジナルアート展

▶10月13日(金)～10月15日(日)
9:00～17:00まで(最終日16:00)

内容●押し花額やポーセラーツ(磁器の上絵付け)の作品展示。牛乳パックを利用した押し花ハガキ(先着30名様のみ無料)。キーホルダー・マグネット(500円)・ミニ額(1,000円)等の体験教室も実施いたします。
会場●東近江市立八日市文化芸術会館
入場料●無料

☎徳永押し花工房 徳永信子
東近江市小脇町778-3
TEL:0748-22-2940
携帯:090-3163-7540

大津絵体験教室

▶10月1日(日)7日(土)8日(日)9日(祝)
10:00～17:00

内容●現代大津絵展に併設している体験コーナー

場所●県立琵琶湖文化館1階ギャラリー

☎日本大津絵文化協会
事務局 小谷清
TEL:077-524-6705

しがチャイルドライン 受け手養成講座2006

内容●チャイルドラインは18歳までの子ども専用電話です。子ども達から信頼されるチャイルドラインを目指して受け手養成講座を開催します。電話の受け手になるかどうかはわからないけれど、子育てに生かしたい、子どものことを学んでみたいなど、関心のある方ならどなたでもOK!

☆9月16日(土)10:00～14:30

「さあ!自分探しの旅に出かけよう」
「チャイルドラインとは」

☆9月30日(土)10:00～15:30

「一心の応え手当―気持ちのワークショップ」「依存症」は子どもたちのSOS!?

☆10月1日(日)10:00～14:00

「ひきこもり・ニートの若者とふれあいながら」「子どもの性の相談に答えるために」

☆10月7日(土)10:00～14:00

「電話を受けるための研修」

場所●生活協同組合コープしが本部(予定)コープ膳所2階会議室(JR膳所駅・京阪膳所駅下車・大津市民病院東隣 TEL:077-522-5111)
※駐車場がありませんので公共交通機関でお越しください。

費用●7,000円(全講座通し)学生4,000円(全講座通し)1講座1,200円

☎NPO法人CASN

申込みは氏名・住所・年齢・連絡先を書いてFAXかメールで
FAX:077-537-5922
e-Mail:info@casn.org

市民活動(NPO)法人・組織の マネジメント基礎講座

▶10月7日(土)10:00～12:30

場所●守山市民交流センター

講師●土田滋男(守山市民交流センター所長)

参加費●500円(資料代)

参加対象●NPO法人の役員や事務局担当者。市民活動団体運営について知りたい方、市民活動任意団体を組織化したい方。

☎さんさん守山(守山市民交流センター)氏名、所属団体、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)をお知らせください

e-mail:mkoryu-c@usennet.ne.jp

TEL:077-583-2975 FAX:077-583-4653

市民活動(NPO)法人・組織の 会計・税務の基礎講座

▶10月14日(土)10:00～16:00

場所●守山市民交流センター

講師●土田滋男(守山市民交流センター所長)

参加費●500円 資料代

参加対象●NPO法人の役員や事務局担当者。市民活動団体経理について知りたい方、市民活動任意団体を組織化したい方。

☎さんさん守山(守山市民交流センター)氏名、所属団体、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)をお知らせください

e-mail:mkoryu-c@usennet.ne.jp

TEL:077-583-2975 FAX:077-583-4653

高齢者虐待防止シンポジウム

▶9月22日(金)13:30～16:40

場所●ピアザ淡海大会議室

参加費●無料

内容●基調講演「高齢者虐待防止法の狙いと目指すもの」柴尾慶次(フイオーレ南海施設長)、シンポジウム「高齢者虐待の現状と防止に向けたシステム構築/事例報告」

☎NPO法人あさがお

TEL:077-522-0799 FAX:077-522-0845

多賀の生き物チェンソーアート展

▶9月2日(土)～10月9日(祝)
9:30～17:00

※休館日=月曜日・祝日の翌日

場所●多賀の自然と文化の館(多賀町立博物館)

内容●生き物をテーマにした木製作品(チェンソーによる彫刻)の展示会。材料は主に間伐材や倒木・流木を使用。環境に優しく、資源の有効利用・アートによる木材の再生を目的とする。

☎高取チェンソーCLUB

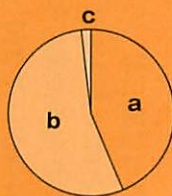
TEL:090-8754-9187(喜多)

「あなたは 防災に対する 備えをしていますか？」

過去の災害に学ぶ
～あなたにこれからできること

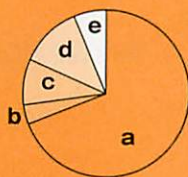
Q1

あなたの家では防災・
減災に対する備えを
していますか？



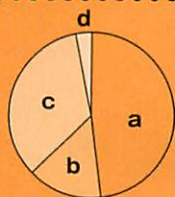
Q2

いざという時に
一番頼りにするのは？



Q3

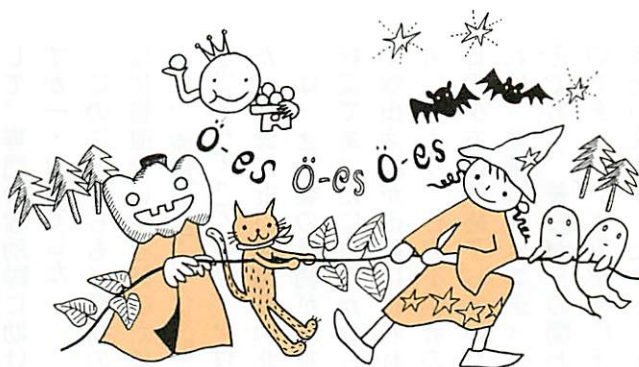
まず家族で
何から始めますか？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力
回答者 総数164名 男性63名 女性79名 不明22名
10代…5名 20～30歳…30名 31～40歳…50名
41～50歳…32名 51歳以上…21名 不明…26名

【11・12月号のアンケート】
次回11・12月号は「教育」をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくはP.9をご覧ください。

この日なんの日 V・O・I・C・E



買い物カゴでわかる人生ドラマ

私が住んでいたシアトル周辺には、ピュージェット消費者生協があります。1953年に15家族の買い物クラブとしてスタートしたもので、現在ではアメリカ最大の自然食品生協です。そこに買い物に来る家族のショッピングカートを見てみると、野菜や果物、魚が中心で子供のおやつもナチュラル志向、マイバッグ持参が基本。普通のスーパーでは、手作り用食材を購入している家族や高カロリーで栄養価の低いジャンクフード中心の家族など、ショッピングカートを覗くと収入とライフスタイルがはっきり分かりました。最近では日本でも高齢者や学生ほど、加工品個食パックが多く、加工品や炭酸飲料水必須といった家族も結構見かけられるようになりましたね。

普段からどんなものを食べているかは、ボランティア活動をする上でも押さえておかないといけないポイントのひとつ。以前、ある学生さんに、ボランティアの食事の買出しに行ってもらって失敗したことがあります。限られた予算で、みんなに活力を与えるヘルシーな品揃えを期待していたのですが、買ってきたものは、ジャンクフード真骨頂といったもの。その学生さんが、普段から昼食をカロリーメイトと炭酸飲料水ですませていたことをすっかり忘れていたのです。

昨年秋に、アリス・テッパー・マーリンさんを招聘してセミナーを開催しました。「社会的責任投資（SRI）※」の元祖で、100万部のベストセラーとなった「Shopping for the Better World」の出版で有名なCEP（経済優先順位研究所）の創設者です。そんな彼女が言っていたことは、少女時代の両親から教えてくれた価値観が今の自分を作ったということです。恵まれた環境に育った者には責任がともなうこと、自然や動物を深く愛すること、人は等しく敬意と平等な機会を与えられるべきこと、そして勤勉であること。政治問題や社会問題、貧しい人たちについても食卓の話題としてあがったそうです。

10月1日から10月31日は、「環境にやさしい買い物キャンペーン」で、全国で様々な取り組みが展開されます。秋の旬を味わえる食卓の話題として、人が集まれば何ができるか、一度話し合ってみてはいかがでしょうか。「変えられる」という信念やそれに伴う行動にはある種の愚かさがあるかもしれませんが、そんな愚かさこそ今必要なのだと思います。

※SRI…社会に貢献している企業に投資すること。

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

「災害は忘れたころにやってくる」といいます。しかし、近年、忘れたころではなく各地でさまざまな災害が起こっています。滋賀県は災害が少ない県と言われるますが、琵琶湖西岸断層帯地震など、いつ自らの身にふりかかるかわかりません。「備えあれば憂いなし」私たちは防ぐことのできない災害に対していったい何ができるのでしょうか。

緊急期

「地域のきずなは命のきずな」

阪神・淡路大震災では、災害発生直後の緊急期に市民の命を守るのに大きな力を持つのは市民であることが明らかになりました。倒壊した家屋などから救出された人のうち、約九十五％は自力でまたは家族や隣人によって救助されたのに対して、専門の救助隊に助けられたのはわずか一・七％でした。

このことから、最初のボランティアは災害直後に生き延びた隣近所の人達であり、家屋の中の人を助け出すという「ボランティア活動」が行われていました。震源に近い淡路島の北淡町富島地区では、全半壊の建物が八割と甚大な被害状況であったにもかかわらず、近隣同士で救出活動が迅速に行われ、消防団の活躍にもより、行方不明者の発見が地震当日の夕方には終了していたのです。これは、地域コミュニティがあったからこそであり、普段からの関わりがいかに大切であり、いざ災害時にその力が試されるといえます。だからこそ、近隣住民が

自発的に助け合えるコミュニティを平時からつくっていく、人間的なぬくもりを感じられる、顔の見える関係をつくるのが、結果として災害につよいまちとなります。

また、直接防災を目的としない地域密着型団体も、いざという時には地域力や組織力を駆使した活動の展開に期待されています。

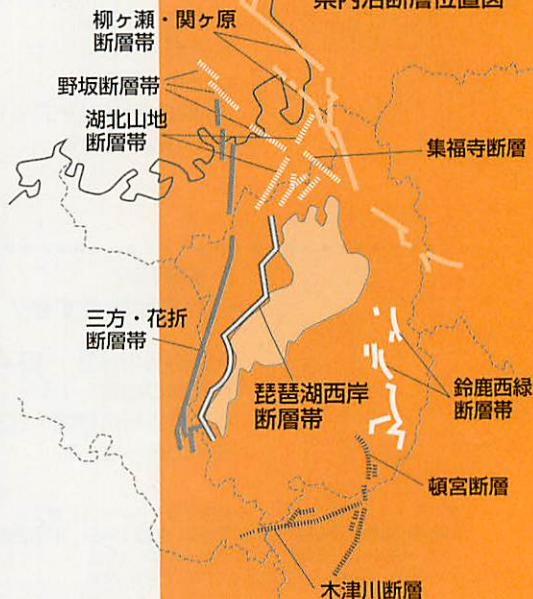
支援・復興期

「ボランティア・NPOの役割」

阪神・淡路大震災では、震災後の一年間で延べ百三十万人を超えるボランティアが活躍し、この動きから「ボランティア元年」という言葉まで生まれました。また、全国各地に災害救援を専門とするボランティアグループやNPOが増えるきっかけとなりました。

被災した人びとのニーズに対応するボランティアは、「私」の気づきから始まるといえます。一人ひとりの生活に違いがあり、被災者の抱える問題も様々であることに「私」が気づかなければ支援は

県内活断層位置図



想定地震	発生時刻	建物被害		人的被害			地震火災 炎上出火件数	避難者数
		全壊棟数	半壊棟数	死者数	負傷者数	重傷者数		
琵琶湖西岸断層帯地震 【ケース1】	早期	45,994	54,078	1,274	10,166	650	39	82,889
	昼間			857	7,941	511	93	
	夕刻			898	7,635	493	93	
琵琶湖西岸断層帯地震 【ケース2】	早期	43,463	53,711	1,173	9,907	639	37	80,630
	昼間			851	7,389	474	87	
	夕刻			848	7,352	478	87	
琵琶湖西岸断層帯地震 【ケース3】	早期	37,976	51,689	885	9,947	622	30	72,947
	昼間			676	7,604	469	73	
	夕刻			653	7,402	467	73	
花折断層帯地震	早期	6,665	23,392	126	4,475	345	9	23,262
	昼間			94	3,416	267	19	
	夕刻			89	3,289	257	19	
東南海・南海自身	早期	1,427	5,848	50	702	50	ほぼ0	5,336
	昼間			41	500	41	ほぼ0	
	夕刻			43	531	44	ほぼ0	

※重傷者数は、負傷者数の内数 ※避難者数は避難所生活者の最大数
 ※東南海・南海地震については、中央防災会議の手法を基本に、計測震度と建物被害率との相関関係より算出

今後30年以内に「琵琶湖西岸断層帯による地震」が発生する確率は、0.09～9%と全国で7番目に高い確率となっています。阪神・淡路大震災の発生直後の評価が0.02～8%であったことに比べても、高い確率であることが分かります。
 (滋賀県：「できることから地震対策！」より)

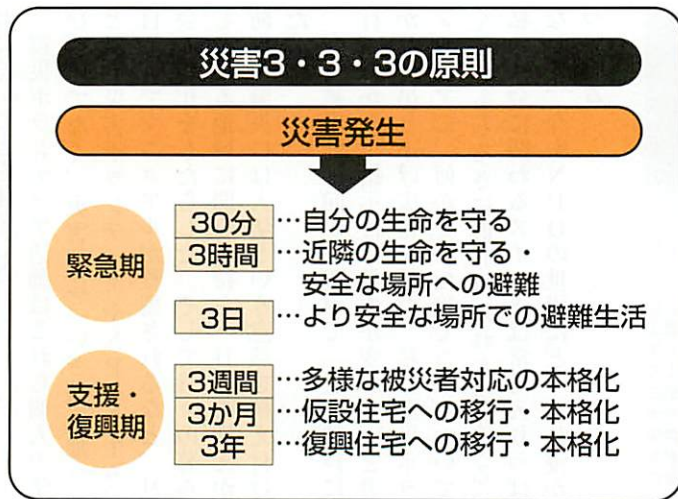
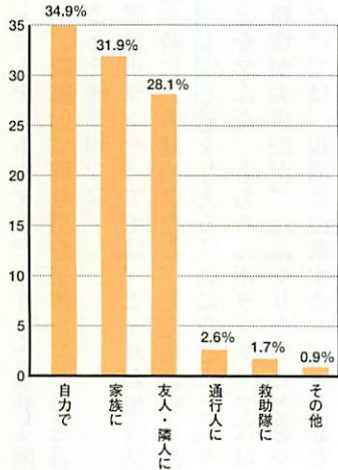
生まれません。例えば、食物アレルギーのある人が、炊き出しや配給の弁当を食べることができないのではないかとすぐに気づくことができるのは、同じ問題を抱えている「私」かもしれません。阪神・淡路大震災では、その日の夕方にはアトピー症の人のための食料を手配するネットワークが動いていました。飼い主を失ったり、被災生活でストレスを溜めたペットの世話をするボランティア活動も見られました。また、都市部には外国の方が多く、日本語以外の情報伝達が求められ、語学を活かしたボランティアやNPOの活動も注目されました。いまでは、普段から多くの言語で生活情報が伝えられる定時番組をもったコミュニティFMも生まれています。

このように阪神・淡路大震災の例をみても、被災者の支援には多様な形があり、NPO・ボランティアは、行政ではできない必要に即した柔軟で多彩な活動を展開できる存在であることが明らかになりました。また、「もう一つの公共活動」を担う存在であることが広く世に認識され、「市民社会」形成への大きな流れとなったのです。

滋賀県でも、防災や減災に取り組むボランティアグループが生まれています。自治会と市町行政との間に入りながら防災教育や訓練の支援をするグループ、オリジナルの劇などを通じてわかりやすく減災への対応を伝えるグループなど取り組みも多彩になってきています。災害ボ

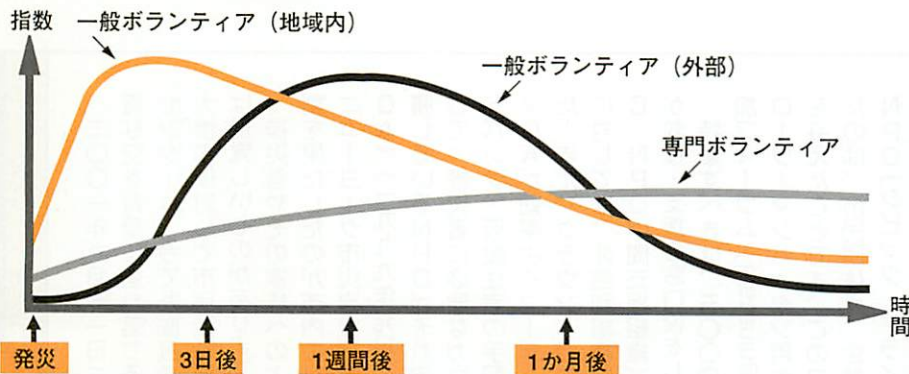
生き埋めや閉じ込められた際の救助の状況

(社)日本火災学会:「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による



ランテアセンター設置に向けての検討も進んでいます。非日常への備えをいかに日常の暮らしの中に盛り込み、互いに助け合える関係性をどのように構築していくかが大切なポイントとなりそうです。

阪神・淡路大震災におけるボランティア活動の推移イメージ



- | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 被災者の緊急救援活動
(例)
・消火
・救出
・応急手当
・交通整理
・避難支援 (災害弱者) | 行政応急業務への応援
(例)
・ボランティアの受入れ
・遺体処理・運搬の手伝い
避難所等への各種支援
(例)
・炊き出し・水汲み
・運搬・荷下ろし
・救援物資の仕分け
・アマチュア無線・パソコン通信 | 被災者の個別ニーズへの支援
(例)
・高齢者・障害者へのケア
・入浴
・子どもの遊び相手
・広報紙の配布
・部屋片付け
・家具荷物移動 | 仮設住宅への支援
(例)
・避難所から仮設住宅への引越の手伝い
・仮設住宅内のコミュニティ活動の手助け
被災地の復興支援
(例)
・まちづくり協議への参加
・被災者のメンタル・ケア |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



阪神・淡路大震災により脱線した電車や倒壊した家屋



阪神・淡路大震災により分断された道路

◀ 出典 / 「災害時におけるボランティアの受入体制とネットワーク化に関する報告書」より
http://www.pref.aichi.jp/borantia2_2.html

あなたは防災に対する備えをしていますか？ 過去の災害に学ぶ～あなたにこれからできること

体験談

山口洋典さんに聞く

「震災をきっかけにNPOの世界へ」

阪神・淡路大震災を期に私の「スイッチが入った」。社会に関わる「スイッチ」だ。

当時静岡県から滋賀県の大学に学びに来て一年目、地域や社会との関わりは薄かった。が、テレビや新聞で震災の状況を見て、いてもたってもいられず現地に飛び込んだ。

何かができると西宮を歩いていたとき、偶然「阪神・淡路大震災被災地の人々を応援する市民の会」の事務所を見かけた。事務所の周辺でやってほしいことがまとめて掲示されていた。そうして瓦礫の片付けを選んだ記憶がある。被災地を往復する回数も増え、大学内に震災ボランティアの窓口を設けられるときには、活動経験者として設立に参加した。議論では皆が名前にこだわって「ボランティア活動交流センター」となった。

二月に入ると現地では長期で滞在する活動に加えて短期で通う活動も生まれつつあった。そこでセンターではボランティア登録だけで終えないよう、現場で活動に参加してもらえ活動を企画した。何人かと相談して芦屋で「幼稚園や保育所におもちゃを持って訪問する」という日帰り活動をつくった。こうして誰に言われるわけでもなく行おうのがボランティア、やがてボランティア



震災当時の活動風景。右から5人目が山口さん。

シアのためのボランティアはボランティア・コーディネーター、そうした活動を継続的、組織的に取り組む主体をNPOと言うことを後で知った。

震災ボランティアでは、よかれと思う活動が時に人の迷惑になる、ただ傍にいるだけでも安心感を与える活動になる、ということ学んだ。もちろんボランティアには自発性が大事だが、ただやりたいことをやるだけでは、現場は混乱する。何より悪意のないボランティア活動に「それはやめてほしい」とはなかなか言いづらいし、言われにくいことを体感した。

震災ボランティア活動はこれら個人の学びだけでなく、災害時に「いざ被災地へ」と動く災害ボランティアやNPOを生み、自治体でマニュアルが整備されるなど、社会の変化をもたらした。そして日々の暮らしを送る地域に関心を持ち、日頃の備えが防災や減災には大切という意識を植え付けた。

当時被災地に向かう電車で「君は神戸に行ったか？ 指示待ち学生が変わる」と書かれた吊り下げ広告を見た。私は震災ボランティアで、何かをした後で言葉がついてくるおもしろさに取り付かれた気がする。私の社会に関わるスイッチは常時入りっぱなしで、今もNPOの世界にとっぷり浸かっている。



●プロフィール●
1975年静岡県磐田市出身。立命館大学理工学部、大学院理工学研究科を経て2000年より大学コンソーシアム京都にてNPO分野の教育・人材育成に取り組む。2006年4月より大阪・天王寺にある浄土宗應徳院主幹。地域資源としての寺院を社会に開いていくための事業の統括責任者として東西奔走。

海外事例

「九・一一NPO」

二〇〇一年九月十一日ニューヨークの真つ青な空を背景に崩れ落ちるワールドトレードセンターは、今でも脳裏を離れません。この大惨事に対して市民活動団体が担った役割には目覚ましいものがあります。

被災者やその家族への人的支援の中心的役割を果たしたのが市内のNPOで構成されるニューヨーク市災害救援奉仕機構(NYCVOA)(一九九九年発足)です。この団体に属しているNPOがそれぞれの専門性を活かして、被災者に必要なカウンセリング、フィードバック、仮設住宅の手配等を行い、NYCVOAが効率よくインターネットを行いました。また、グラウンドゼロ周辺の被災NPOに対しては、非営利組織調整委員会(NPCC・NPO中間支援組織)(一九八四年発足)が救援・支援の窓口役をしました。

特筆すべきは、五〇〇〇人の大規模市民参加フォーラム「Listening To the City」が、ローワーマンハッタン再生計画に大きな影響を与えたことです。このフォーラムを主催したのは、市民団体や、企業で構成されているNPO「シビック・アライアンス」で、企画運営は、NPO「アメリカ・スピークス」が行い、最新情報機器を駆使した「Listening To the City」は二〇〇二年七月二〇日と二十二日に開催されました。この結果、当初行政が提案していた六つの初期計画は撤回され、国際設計コンペを実施するという大胆な変更となりました。このように見えていくと、災害復興には、市民の立場であるNPOの連携ネットワークが如何に大切かが分かります。

そこが知りたい!

NPO運営術

Vol.3

「税務」について知りたい① 税務署等への届出について

Q 法人設立時に税務で必要な届出を教えてください。

A 法人税の対象となる収益事業（左記の33事業※）を行っているか？

※33の事業とは？

物品販売業、不動産販売業、金銭貸付業、物品貸付業、不動産貸付業、製造業、通信業、運送業、倉庫業、請負業、印刷業、出版業、写真業、席貸業、旅館業、料理飲食店業、周旋業、代理業、仲立業、問屋業、鉱業、土石採取業、浴場業、理容業、美容業、興行業、遊技所業、遊覧所業、医療保健業、技芸教授業、駐車場業、信用保証業、無体財産権提供業

「1」収益事業を行っていないとき

（法人税を申告しなくてもよいNPO法人）

提出先…管轄の県税事務所・振興局等
税務課及び市町村税担当課
提出書類…法人の事業開始等届出書（定款のコピー・登記簿謄本等を添付）
提出期限…法人設立の日以後2月以内

「2」収益事業を行っているとき

（法人税の申告が必要なNPO法人）

「1」の手続きに加えて以下の届出が必要です

提出先…税務署

提出書類…①収益事業開始届出書（定款のコピー・登記事項証明書・設立時貸借対照表等を添付）②青色申告を選択する場合は「青色申告承認申請書」

提出期限…①法人設立の日以後2月以内
②事業開始後3月を経過した日もしくは事業年度終了日のいずれか早い日の前日

「3」給与を支払う職員がいる場合

提出先…税務署

提出書類…給与支払事務所の開設届出書
提出期限…給与支払の事務所等を開設した日から1月以内
その他…納付方法については「源泉所得税の納期の特例の承認に関する申請書」

「4」消費税の免税事業者が課税事業者を選択する場合（原則として免税事業者）

提出先…税務署
提出書類…消費税課税事業者選択届出書
提出期限…開業した課税期間の末日

※県への届出書は滋賀県ホームページ
(<http://www.pref.shiga.jp/shinseisho/>)より
税務署の届出書は国税庁のホームページ
(<http://www.nta.go.jp/>)より

●淡海ネットワークセンターでは、NPOの会計・労務・税務について質問を受け付けています。詳しくは、九ページをご覧ください。

市民活動やNPOのツボ情報

孫の手ナビ

かゆい所に手が届く



①創立者の深尾勲氏
②太陽電池学習セットを使って（三上小学校）
③高校生（理工系クラス）への奨学金贈呈式
④親子ものづくり教室（大津市科学館）

今年初め、創立者の深尾氏は母校の老上小学校を訪問し、「ようこそ先輩！自分さがしの旅」と題した特別授業を行いました。六年生に「成せば成る。やってやれないことはない」「驚き、疑問を確かめたい！その心を忘れずに」など熱いメッセージを届けました。瀬田工業高校を卒業したご自身と子どもたちの未来の姿を重ね合わせ、理工科離れに少しでも歯止めをかけ、琵琶湖と人の共生を実現するエンジニアの育成に情熱を傾けます。

Sekenよし

企業の社会貢献や
市民・行政との
協働etc.をご紹介します

財団法人 エネサーブ
理工教育振興財団
TEL.077-516-0830 FAX.077-516-0831
<http://www.eneserve.co.jp/>

子どもたちの理工科離れに歯止めをかけ「琵琶湖と人の共生」を実現するため、教育振興と人材育成を通して、環境に優しい工業の発展に寄与したい。
エネサーブ株式会社は一九六五年に創業（前身・関西精密計測株式会社）。
自家用発電設備を軸に、二〇〇〇年ナスタックジャパン、二〇〇一年東証一部上場を果たしました。故郷の滋賀県に貢献したいという創業者の思いから、上場のキャピタルゲインを基金に二〇〇〇年「エネサーブ理工教育振興財団」を設立。

事業の柱は三つあり、第一に県下の小・中・高校への理科教材を寄贈・助成（今年度計画一校あたり上限五十万円・合計千二百万円）。少年少女期から理工系への興味を抱かせるような模型・実験器具・図書・ビデオなどで、年々応募が増え、これまで延べ二百九校に教材を贈りました。第二に奨学金制度の実施で、理工系クラスの高校生が十分に能力を発揮できる環境を応援するため、二十名に十萬円の奨学金を支給。審査を担当する荒木常務理事は、「最近、環境問題に対する高校生の問題意識が非常に高い」と作文一通一通から熱意がひしひしと伝わってくる。最後に第三の柱として、体験を通して科学への興味や夢を育てるために、県下一円で科学の祭典や親子ものづくり教室、ソーラーボート大会など科学に関するイベントを年八回開催します。

元気探し隊

GENKI SAGASHITAI

NPO

9月18日「敬老の日」
まちづくり

じいちゃんズ

縄文時代からの米作りを
現代っ子とともに

守山市下之郷には縄文時代の環濠集落の遺跡があります。その遺跡から発掘された熱帯ジャポニカの粉が芽を出したそうです。そこで古代の米の特性を受け継ぐ赤米三種類を遺跡地域の田んぼで栽培しないか、と教育委員会から依頼を受けたのが、下之郷在住の「じいちゃんズ」の皆さんでした。メンバーは現在二十名で、主に六十歳以上の農業者と会社上の定年退職者で構成されています。

平成十一年の春から吉身小学校の五年生と共同で、戦中・戦後に行われていた稲作作業



●代表の大崎四郎さん

10月9日「国際協力の日」
まちづくり

近江八幡外国籍
市民ネットワーク

ひとりが変われば社会が変わる
多文化共生社会づくりの実現を目指して

アメリカ・中国・ブラジルなど、その他様々な出身国・母国の正会員で構成されている近江八幡外国籍市民ネットワークは、外国籍市民が互いの文化や言語の違いを尊重して友好関係を構築するとともに、すべての市民の人権が尊重される多文化共生社会の実現を目指して、二〇〇三年に設立されました。

近江八幡市に在住する外国籍市民の割合は、県内でも多いほうではありません。しかし、その少数市民（外国籍住民）に対する取組は「他の市町には負けない」と自負されています。

同ネットワークは、昨年三月、外国



●近江八幡市民国際交流のついで「わいわいパーティー」の様子



●ポルトガル語の講演会「こころのケア」の様子

●会長のスコット・マーレーさん

10月20日「リサイクルの日」
環境

特定非営利活動法人
環境工房ころころ

フリーマーケットスペースを活用して
『もったいない』を行動に

旧山東町の環境保全課が設置したりサイクルステーションの運営ボランティアとして集まったのが活動の始まりです。米原市の合併を期に、使い捨ての生活を変えるために資源の有効利用の場を提供するNPO法人となり、米原市リサイクルステーションの運営を受託して二年目を迎えています。

リサイクルステーションは、まだ使える物とそれを必要とする人との出合いの場。ここでは、不用品（リサイクル品）・手づくり品の委託販売、「探しています・譲ります」の掲示板での情報交



●理事長の田中万祐さん

イキイキとした暮らしや、地域の魅力を創るために、ボランティアや市民活動を広めようと日夜奮闘している元気なNPOを探し出して、応援していきます。

を開始。初をまいて苗床作り、手で行う田植えと除草、稲刈り、足踏み脱穀機や「とうみ」での選別なども実際に昔の道具を使用していません。じいちゃんズの本拠地のプレハブにはそんな昔ながらの道具が保管してあります。農作業のほかに代かきのころに田んぼで泥



あいさつしてくれるときですとね」と顔をほころばせます。人生の先輩方がこんなにお元気だと地域も自然に活性化するのはないでしょうか。

(編集ボランティア 幡 郁枝)



んこ遊び、秋には案山子作り、収穫後には赤米の餅つき大会も開催します。じいちゃんズの活動は赤米作りだけに留まらず、小学校の登下校の立ち番、学区の幼稚園・保育園へ赤米・ポン菓子などの配布などのボランティアも。また、平成十六年にはトヨタ財団の助成金を得てインドネシアのトラジャ族を訪れ、平成十七年には西日本遺跡ボランティア大会に参加しています。代表の大崎四郎さんは「小学五年生はちょうど孫世代。世代間交流の場となっています。一番うれしいのは卒業生が道で

●赤いはっぴがユニフォームの「じいちゃんズ」のメンバー

●吉身小学校の五年生を指導する稲作作業の様子

じいちゃんズ

代表●大崎四郎 連絡先●TEL: 077-583-3003 設立●1999年
連絡先●守山市下之郷672 会員●20名

籍市民を対象に行ったアンケートをもとに「多文化共生センターの設置」や「市民病院などの医療通訳者の常駐や案内の多言語化」など、外国籍市民に関する施策を積極的に推進するよう、市に提言を行いました。その結果、今秋新しくできる市民病院では案内板の多言語表示がされることとなりました。また、現在市と共同で「くらしの便利帳(パンフレット)」を多言語に翻訳するなどの取組を行っています。こうした動きは、同ネットワークの熱心な活動もさることながら、行政側に共に取り組む姿勢があったことが大きいと言えます。

「外国人をヘルプ・サポートすることが多文化共生ではなく、同じ市民として責任を持ち共に仲良く歩んでいくという意識が必要」と会長のスコットマーレーさん。また「選挙権を持つ日本国籍市民だけでなく一緒に推進することで初めて多文化が共生する豊かなまちづくりができる」と事務局長の安德烈(アンドリヨリ)さん。

最後に「たった一人でもいい。ひとりが変われば社会が変わるのだ」と話されました。

(編集ボランティア 大河原 佳子)



●事務局長の安德烈(アンドリヨリ)さん

近江八幡外国籍市民ネットワーク

代表●スコット・マーレー 設立●2003年
会員●84名(正会員42名、賛助会員42名)
連絡先●近江八幡市桜宮町236 TEL: 0748-36-5552 FAX: 0748-36-5553

換、衣服のサイズ直し・リメイク研究、エコライフ推進活動などを行っています。「中古品を使うことをためらっていたが、一度使ってみると抵抗がなくなった」「買い物に出かける前にリサイクル品として出していないかと思ひ、先にここに立ち寄った」など、活動の手応えを感じさせてくれる利用者からの声もあります。

理事長の田中さんと事務局の富岡さんは「今は、とにかくもっと多くの方に存在を知ってもらい、気軽に利用してもらって、もったいないを行動にかえる場所として活用してもらえよう。に、そして、地域の中で、なくてはならない有意義な場所として成長していきたい」と話します。



●リサイクル品や手作りを委託販売



●事務局の富岡尚子さん

特定非営利活動法人 環境工房ころころ

代表●田中万祐 設立●2005年 会員●運営スタッフ30名 納品会員235名
連絡先●米原市池下428 米原市ボランティアセンター三島荘1階 TEL/FAX: 0749-55-1113



●リサイクルファッションショーの様子

親しみやすさが持ち味のリサイクルステーションで人気の商品は、鍋、タオル、チャイルドシート、制服など。フリーマーケット感覚でちよつとのぞいてみたら、驚きの安さの掘り出し物に出会えるかもしれませんね。

(編集ボランティア 小林 由季)

第5回おうみNPO活動基金助成の募集

資金面等での基盤強化を図り、NPOが経営力を高めることを目的に、助成団体を募集します。

◆助成申請期間：9月1日(金)～10月15日(日) 17:00

※詳細は後日ホームページに掲載予定。

<おうみNPO活動基金募集説明会>

①日時：9月9日(土) 10:00～12:00

場所：米原中央公民館(0749-52-2240)

②日時：9月9日(土) 15:00～17:00

場所：草津まちづくりセンター(077-565-0477)

③日時：9月12日(火) 18:30～20:30

場所：ピアザ淡海204会議室(077-527-3315)

④日時：9月16日(土) 10:00～12:00

場所：高島市新旭公民館(0740-25-8100)

第4回おうみNPO活動基金中間報告会

第4回おうみNPO活動基金の採択団体による中間発表会を開催します。それぞれの団体の取組状況、課題など、基金運営委員との意見交換を交えながら行います。これからの活動の参考に、また、第5回基金助成に応募を検討されている皆さんもぜひご参加ください。

◆日時：9月23日(祝) 12:50～17:00

◆場所：ピアザ淡海207会議室

※詳しくは、ホームページをご覧ください。

「おうみ市民活動屋台村2006」開催

～自然あふれるマキノ高原で開催します～

まちづくり団体やNPO・ボランティアグループ

の活動を紹介する催しです。楽しいイベントをたくさん用意しています。ご家族・お友達をお誘いのうえ、みなさんでお越しください!

◆日時：10月28日(土) 10:00～17:00

10月29日(日) 10:00～15:00

◆場所：マキノ高原(高島市マキノ町牧野)



わくわく市民活動ゼミナール 開催予告 ～社会起業ビジネス・モデル講座～

地域社会には、自らが暮らしやすく、小さくても地域での取り組みを持ち寄って支えあう仕組みが欲しい!今年のゼミナールは、こういった仕組みつくる社会起業家から考え方を学び、地域課題解決型事業の立ち上げにつながることを期待して開催します。

(1) <総論・講義>

『ライフスタイル・ビジネスモデル
いま地域の求められる人のスタイルを探る』

◆募集60名程度

◆講師：大西辰彦さん(京都学園大学教授)

◆開催日：10月下旬(平日 19:00～21:00)(会場未定/草津市内)

◆参加費：500円(資料代)

(2) <フィールド調査>

『高知県馬路村=徳島県上勝町 現地視察』

1泊2日(馬路温泉泊)

◆募集20名(バス借上げ)

◆開催日：11月18日(土)

8:00 大津出発 午後 馬路村視察

19日(日) 午後 上勝町視察

大津帰着 21:00

◆参加負担金：35,000円程度を予定(バス、食事、宿泊、保険等の経費)

(3) <ワークショップ>

『社会起業事業のビジネス構造をつくる』

◆募集30名

◆講師：田辺 大さん

(有)フォレスト・プラクティス代表

◆開催日：12月2日(土)

13:00～17:00(会場未定/草津市内)

◆参加費：1,500円(資料代・お茶代)

※詳細は、9月上旬に公表します。

NPO活動推進自治体フォーラム 前夜祭おうみ市民活動フォーラム ～新しい公益を考えるマルチパートナーシップの時代～

私たちは今、ちょうど大きな時代の転換点にきています。地域の魅力を引き出すNPOや社会企業が、マルチパートナーシップ時代における新しい公益をつくる重要な担い手として期待されています。このうねりを、21世紀の地域活性化につなげるにはどんな仕掛けが必要なのでしょう。地域づくりに欠かせない行政との協働に焦点を当て、市民やNPOに何ができるのか、参加者の皆様と一緒に考えてみたいと思います。

◆日時：11月7日(火) 18:30～20:40

◆場所：ピアザ淡海3階大会議室(予定)

◆参加費：500円(資料代)

※詳細は後日ホームページに掲載予定

「おうみ未来塾活動発表会」

地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、昨年、おうみ未来塾に入塾した第7期生は、「たすけあい、みつけあう、フィールドに入り、現場で学ぶ」を合い言葉に、現在、塾2年目のグループ研究活動に取り組んでいます。これまでのグループ研究活動とこれからの取り組みについて発表します。

また、第8期生は、本年6月の入塾から3か月の間、各地のフィールドワークを通して学んだことを報告します。

「地域プロデューサー」を目指す、おうみ未来塾生の発表から、これからの地域づくりへのヒントをたくさんお持ち帰りください。

◆日時：9月30日(土)

13:00～15:30

◆場所：コラボしが21 3階大会議室(大津市打出浜2-1<びわ湖ホール向かい>)

※詳しくは、ホームページをご覧ください。

上記に関するお問い合わせは、淡海ネットワークセンターまで! TEL: 077-524-8440 FAX: 077-524-8442

E-mail: ohmi-net@mx.biwa.ne.jp http://www.biwa.ne.jp/ohmi-net

11・12月号の特集アンケート

テーマ：教育

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで淡海ネットワークセンターまでご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。

▶ アンケート締切：9月末日

Q1.中学生の頃の一番の悩みは何でしたか?

a.成績・進路 b.友だち c.先生 d.身体 e.その他

Q2.今の学校教育で一番深刻と思うのは?

a.いじめ b.学力低下 c.非行 d.不登校 e.学級崩壊 f.その他

Q3.あなたが学ぶとしたら次は?

a.外国語などのカルチャー教室 b.市民大学などの講座
c.仕事に必要な資格講座 d.大学・大学院 e.その他



支える・つなぐ・結ぶ情報BOX 9・10月

伝言板に掲載できなかった情報は、センターのホームページに掲載しています。URL●<http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net/>

助成金情報

第7回花王・みんなの森づくり活動助成

内容●既に緑を守り育てる活動(森づくりの活動)に取り組んでいる団体を対象とした「プロジェクト助成」とこれから緑を守り育てる活動(森づくりの活動)に取り組もうとする団体や設立後1年未満の森づくりの活動に取り組んでいる団体を対象とした「スタートアップ助成」の2つのタイプに分かれています。

対象団体●

(1)プロジェクト助成/国内で森づくりの活動に取り組んでいる団体(町内会、学校などを含む。)(2)スタートアップ助成/国内で新たに森づくりの活動に取り組もうとする団体及び設立後1年未満の森づくりの活動に取り組んでいる団体、新たに森づくりの活動に取り組むための団体を立ち上げようとするグループ

募集期間●8月1日～10月31日

☎財団法人都市緑化基金「花王・みんなの森づくり活動助成」係

TEL:03-5275-2291

<http://www.urban-green.or.jp/home/home.html>

美しいしがのふるさとづくりこんくーる

滋賀の農村地域が有する財産を守り、磨き、次代に受け継ぐことを目的として、地域のみなさんが協働して行っている取り組みを顕彰し、県内外に滋賀の農業・農村の魅力を知っていただくため、「美しいしがのふるさとづくりこんくーる」を実施します。

内容●下記の各部門に該当する地域の取り組み事例を募集します。

◆風景づくり部門/農業生産や農村生活の場で、地域特性を活かした美しく心安らぐ田園風景づくりに貢献する取り組み。

◆自然との共生部門/地域の動植物との共生、多様な生物の生息環境復元など、自然を活かした生産環境の保全に貢献する取り組み。

◆人の輪づくり部門/美しいふるさとづくりに向けた農村コミュニティの活性化、都市住民やNPOとの協働など、人とひととの絆づくりに貢献する取り組み。

応募資格●滋賀県内で各部門の対象となる取り組みを行い、構成員が10人以上で、今後も継続した取り組みが見込まれる団体。自薦、他薦は問いません。・今年度に他の補助事業として実施している取り組みについては、審査対象外とします。ただし、補助事業に関連して、別途地域独自で行っている取り組みは応募可能です。

応募期間●8月1日～9月29日

賞●各部門に最優秀賞、優秀賞、優良賞を選考します(副賞:最優秀賞30,000円、優秀賞15,000円、優良賞5,000円)

☎滋賀県農村振興課農村企画担当

〒520-8577 大津市京町四丁目1-1 TEL:077-528-3963

<http://www.pref.shiga.jp/g/noson/>

近江八幡NPO活動促進事業助成金

近江八幡市におけるNPO活動(自発的かつ自立的に行う、不特定多数のもの利益の増進に寄与する活動)を促進するため、予算の範囲内で助成金を交付するものです。

①団体立ち上げ支援 ②事業支援

対象者●近江八幡市内に事務所又は活動の拠点を置く特定非営利活動法人、または特定非営利活動法人に準ずる団体(特定非営利法人法別表に掲げる活動を行う団体)で、かつ市に登録した団体とします。

受付期間●10月1日～11月30日

※申請用紙はハートランド推進財団事務所にてお渡しいたします。

助成金額●総額25万円

☎財団法人ハートランド推進財団事務局

〒523-0864 近江八幡市為心町元9番地(白雲館内)

TEL:0748-33-5510 FAX:0748-33-5697

<http://www.hottv.ne.jp/heart/>

イーパーツ リユースPC寄贈プログラム

内容●日本国内でボランティアなどの活動をしている非営利団体を対象として、その活動の情報化の支援を目的に、セルロン600MHzクラス以上のリユースパソコンを一団体につき上限10台まで寄贈しています。

寄贈対象●公益性をもつ活動(ボランティア活動など)を行いつつ予算などの諸事情により情報化が遅れている団体

申請期間●毎月偶数月(2月、4月、6月、8月、10月、12月)10日締切、合計年6回を予定

※申請はいつでもできます。

※上記の締め切り内に届いた申請書類をその回の審査対象とします。(締め切り日当日消印有効)

申請方法●当寄贈プログラムでは、エントリー制を採用しています。下記のホームページからエントリー後、申請書類をダウンロード、必要事項をご記入の上、他の必要資料と合わせて事務局まで郵送にてご提出いただきます。

※メールアドレスのない団体は、FAXや郵送でもエントリーができます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

☎特定非営利活動法人イーパーツ

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1-17-4 メゾンクロニア307

TEL:03-5481-7369 FAX:03-5481-7369

<http://www.eparts-jp.org/>



Relay Essay

おうみ未来塾生
リレーエッセイ

[3期生]

松田 直子さん

株式会社 Hibana 代表取締役

薪く炭くKYOTO(しんくたんくきょうと)元代表



卒業して早3年。おうみ未来塾の卒業文集を久しぶりに読み返してみました。

「この間に何が変わったかという、ほんの一步だけ前進したような気がします。地域プロデューサーは一朝一夕にしてなれるものではなく、これからの長い道のりのスタートラインに立ったのではないかと思います」とありました。

おうみ未来塾に参加した時、私は社会人一年目で、環境の変化と

「一期一会の出会い」

立ち上げたNPO活動で悩み、サボりがちな2年でした。グループ活動では駄菓子と紙芝居に取り組み、学んだことが今になって「ああ、なるほど」と思う瞬間があります。

森林バイオマスをテーマに活動する薪く炭くKYOTO(しんくたんく)というNPOでの活動が発展して、この5月に仲間と起業しました。未来塾でのいろいろな人との出会いとパワーが、今の活動の原点になっています。

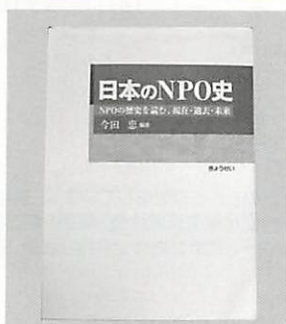
※「おうみ未来塾」は、地域課題に取り組むリーダーを目指す人が集う塾で、現在7期生・8期生が学んでいます。これまでに約140人が卒業し、各地で「地域プロデューサー」として活躍しています。

新刊書籍案内

「日本のNPO史」

編著/今田忠 ぎょうせい 2,381円+税

NPOを、民衆が広く地域社会のために取り組む組織と考えれば、はるか平安・鎌倉の時代へ溯ることができる。「公共公益=行政」の思いこみは、戦中の統制強化から高度成長期の終焉までの間の「刷り込み」だったのかもしれない。今日までの非営利組織、公益組織の歴史を概観する。



滋賀会館シネマホール 9・10月の上映予定

『寝ずの番』

9月5日(火)～18日(祝)

『ブローバック・マウンテン』

9月12日(火)～24日(日)

『県庁の星』

9月15日(金)～24日(日)

『マイアークエクト ルイス・カーンを追って』

9月12日(火)～18日(祝)

◆リクエスト受付中!

上映してほしい作品名と住所、氏名、電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネットワークセンターまでお送りください。

・各回入替制
・料金は作品によって異なります
・毎週水曜日1,000円均一サービス
・毎週木・金曜日の初回
16:00以降の回1,200円均一サービス
TEL:077-522-6191
滋賀会館シネマホール

▶ 11月・12月の掲示板 情報募集中! 日時・場所・問合せ先等を明記の上、10月1日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

木 THU	金 FRI	土 SAT	日 SUN
10月	9月 1 防災の日 おうみNPO活動基金助成募集 (~10/15)	2	3
7	8 国際識字デー	9 救急の日	10 下水道の日
14	15	16 国際オゾン層 保護デー	17
21 世界アルツハイマーデー	22 イラスト: 魔女と猫	23 秋分の日 おうみNPO活動基金 中間発表会	24 清掃の日
28 パソコン記念日	29 イラスト: 魔女と猫	30 イラスト: 魔女と猫	10月 1 びわ湖水源のりの日 環境にやさしい買い物 キャンペーン(~31日)
5 イラスト: 魔女と猫	6 イラスト: 魔女と猫	7 イラスト: 魔女と猫	8 木の日
12 イラスト: 魔女と猫	13 イラスト: 魔女と猫	14 鉄道の日	15 たすけあいの日
19 イラスト: 魔女と猫	20 イラスト: 魔女と猫	21	22
26	27 読書の日	28 おうみ市民活動屋台村2006	29

★ネットワークセンター休館日

NPOカフェ見聞録

地球や人にやさしい
スローなカフェを紹介します

「喫茶&作業所雑貨 ふおれすとディス」

大津市瀬田北中学校の向いにあるおしゃれなカフェ。県内外の共同作業所で作られた器や絵、さをり織バッグなど世界で一つのアートに出会えます。おすすめは身体にやさしいがんばクッキー (350円) や手作りの目替わりランチ (530円)、自家焙煎珈琲 (250円) が楽しめます。

若者と障害を持つ人の出会いの場を創ろうと、毎月1回手話歌や龍大バンド「流れ星」他のライブ(軽食付800円)で人気を呼んでいます。ゆったりと流れる時間に身も心もリラックスしながら、美味しい「食」にほっこりしてみませんか?

【問】 共同作業所ふおれすとディス
大津市大將軍1丁目15-1
TEL.077-543-2844 FAX.077-543-2767
【10:00~18:00・土日祝休】



手作りアートや音楽、食を通して
障害者と市民の交流の場づくり

編集後記

「じいちゃんズ」の皆さんはちょうど父と同じ世代です。老人クラブの父も、交代で地元小学生の下校時見回りを軽トラに乗って行っています。活動後の一杯が重要なコミュニケーションの場、というのも同じ。地域から必要とされることで、シルバー世代はますます輝くのでしょうね。皆さんどうぞお元気で。

(編集ボランティア 幡)

今回の取材を通じて、地域の方々を対象にした活動が残念ながら地元であまり知られていないということを知りました。独りよがりではなく必要とされる活動へ…そんな想いを多くの方に伝えていけるよう、編集ボランティアとして応援していきたいと思えます。

(編集ボランティア 小林)

淡海ネットワークセンター (財) 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net ■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29~1/3を除く)

火~金曜日/9:00~19:00 土・日曜日・祝日/9:00~17:00

※淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、滋賀県信用組合、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館 など

※バックナンバーはホームページでご覧いただけます。

※最新情報はメルマガでお知らせしています。ご希望の方は上記メールアドレスまで。



©無断転載を固くお断りします。